

のぐち しゅういち
野口 修一

尚美音楽短期大学5期生（クラリネット専攻）



略歴

昭和 62 年	尚美音楽短期大学卒業
昭和 63 年	増毛町立増毛中学校教諭
平成 4 年	天塩町立川口小学校教諭
平成 10 年	留萌市立港南中学校教諭
平成 19 年	羽幌町立天売小中学校教頭
平成 30 年	留萌市立留萌小学校教頭
令和 2 年	稚内市立声間小学校校長
令和 3 年～現在	稚内市立稚内南小学校校長

主な役職歴

留萌管内小中学校教頭会副会長
留萌地方音楽教育研究会副会長

「尚美」という言葉を聞いて、まず思い出す場所は旧上福岡キャンパスのエントランスホールです。柔らかな日差しが差し込むホールには、大体いつも同じ管楽器専攻の先輩や同期生らが昼寝していたり、練習室を借りずに楽器の練習をしたりしていました。何人が集まると駅前にあった弁当屋のバイトのことや痴話話、有志によるビックバンド活動など他愛のない話題や出来事でもちきりでした。また、月曜のレッスンの日ともなるとクラリネット専攻生の中に何とも言えない緊張感が走っていたのも忘れられない思い出です。故大橋幸夫先生のレッスンはさらっていないと、すぐに打ち切りとなります。私の最短記録は最初の嬰へ長調の上りスケールを失敗し、約1分でその週の指導が終了しました。その後は同じように先生に怒鳴られた同期生や後輩問わず、有無を言わずに練習室へ直行です。しかし、昼食時となると先生は専攻生全員に自腹で食事を毎回振る舞い、専攻生同士のコミュニケーションの場を設けてくださいました。あのように大きな愛情と厳しさがあったからこそ、元来、怠け気質の自分が短期間のうちに器楽専攻生として恥ずかしくない程度の演奏技術が身に付き、卒業できたことと思っています。故大橋先生をはじめ、その当時の先生方や職員の皆様には今も感謝の言葉しかありません。

在学中の後輩にあたる皆さんの中には、コロナ禍をはじめ、予測できない社会情勢など漠然とした不安を感じている人も多くいるかと思えます。内容に差異はあれども、その当時の学生たちも将来に対する不安や戸惑いなど同じようにもっていました。学生としての根本的な社会へのスタート地点は今も昔も大きく変わることはないと思います。尚美学園は、開学当初から音楽教育に情報やビジネスなど先進的に取り入れた実績もあり、人の繋がりやその時代の社会に応じた教育カリキュラムを大切にしている教育機関です。各自が抱えた悩みや今後の方策など、先生方や職員の皆さん、私たちを含めた先輩に積極的に相談することが解決の糸口になることでしょう。

最後になりますが、尚友会の小山内会長をはじめ、尚美時代の数多の友人の顔は数十年たった今も笑顔しか浮かんでできません。それはあの頃の若人たちが、今、尚美に通っている皆さん自身と同じように、社会の原石として一番輝いていたからだと思えます。次世代社会の担い手としてのご活躍を心からお祈りいたします。